

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅終末期ケアにおける多職種連携の実態調査 (第 4 報) 連携上の成功要因および課題
演者名	辻村真由子 ¹⁾ 、藤田淳子 ²⁾ 、乙黒千鶴 ²⁾ 、池崎澄江 ¹⁾ 、福井小紀子 ²⁾ 、 井川 齊 ³⁾
所属	1) 千葉大学大学院看護学研究科 2) 日本赤十字看護大学地域看護学領域 3) もりおか往診クリニック・チームもりおか

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		5

目的

在宅ケアを受けて亡くなった利用者を担当したチーム（医師、訪問看護師、ケアマネジャー(CM)、介護職）における連携上の成功要因および課題を明らかにする。

方法

調査方法等は第 1 報参照。回答した利用者のケアにおける連携上の成功要因および課題に関する自由記載の内容について、内容分析を行った。

結果

医師（31 件）からは、成功要因として、訪問看護師が利用者の急変に迅速に対応してくれた／CM が利用者の些細な変化に常に気を配っていた等、課題として、遠慮により指示が遅れた／病状悪化に対して訪問看護師にもう少しかかわってほしかった／CM とあまりかかわりが持てなかった等が抽出された。訪問看護師（33 件）からは、成功要因として、医師とタイムリーに連携できていた／CM を中心に情報交換することができていた等、課題として、利用者の医療依存度が高くなると CM との情報共有が希薄化しやすい／短期間の訪問であり、ヘルパーとの連携が不十分であった等が抽出された。CM（50 件）からは、成功要因として、医師に臆することなく働きかけた／医師と訪問看護師間のやり取りを訪問看護師から情報収集することができた等、課題として、医師に病状や今後の予測について聞くことができなかった／医師・訪問看護師から情報提供がなされなかった等が抽出された。介護職（7 件）からは、成功要因として、情報を CM に集め、サービス間で連絡をとりあわなくても連携がとれていた／医療的なことについて他職種からのフォローが得られた等、課題として、医師・訪問看護師の言葉に家族が心を痛めていることを代弁できなかった等が挙げられた。

考察

医師、訪問看護師、CM、介護職のそれぞれに他職種への遠慮や躊躇があることが明らかになった。これらの生の声を多職種で共有し、個人の問題ではなく地域としての問題としてとらえて一つ一つ解決していくことが、真の多職種連携につながると考える。